

令和 5 年 8 月 4 日

東員町議会北勢線対策検討特別委員会委員長

水谷 喜和 様

東員町議会

山崎 まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5 年 7 月 25 日 (火) ～ 7 月 26 日 (水) 【2 日間】
研修 (視察) 先	7 月 25 日 国土交通省鉄道局 (衆議院会館委員会室にて) 7 月 26 日 銚子電鉄 (銚子市議会 & 銚子電鉄乗車)
目的 (テーマ等)	7 月 25 日 「ローカル鉄道に対する国の支援について」 7 月 26 日 「銚子電鉄の運賃外収入について」
参加議員名 (複数の場合)	水谷委員長、片松副委員長、 大谷委員、広田委員、伊藤委員、山崎委員
資料添付の有無	有 ・ ☒ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

《研修概要、内容》

7月25日

◎国会議事堂委員会室において、国土交通省鉄道局の施策について説明を受ける。

国交省鉄道局 鉄道事業課 地方鉄道再構築推進室 係長

吉田 聡 氏

国交省鉄道局 鉄道事業課 地域鉄道戦略企画調整官

黒鳥 孝則 氏

●地域鉄道等に対する支援の概要

①安全輸送の確保

「鉄道軌道安全輸送設備整備事業費補助金」（公共）

「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」（非公共）・・・レール、枕木、他

②移動の利便性向上・利用環境の改善

「訪日外国人旅行者受け入れ環境整備緊急対策事業費補助金（非公共）

令和5年度より「ポストコロナを見据えた受け入れ環境整備促進事業補助金」

「公共交通利用環境の革新」（非公共）

③利便性の向上

「幹線鉄道等活性化事業費

●地域公共交通の活性化及び再生に関する法律などの一部を改正する法律

☆法改正の概要

地域関係者の連携と協働の促進「地域公共交通活性化再生法」

●鉄道事業再構築事業の見直し

☆今までは「上下分離；㊦＝鉄道事業者、㊧＝自治体」であったが、

今後は「みなし上下分離」も再構築事業が使えるようになる。

現在「地域公共交通活性化及び再生の促進に関する基本方針」の変更案に関し、パブリックコメント募集中（2023/6/30～ 2023/7/30）である。

●地域公共交通再構築調査事業

【補助対象事業者】協議会又は自治体

【補助率】1/2

【支援対象】○協議会の運営 ○線区評価のための調査事業の支援

○実証事業の支援

●社会資本整備総合交付金の対象事業⇒⇒⇒自治体への補助で使い勝手の良いもの

補助要件として、「地域公共交通計画」が作成されており、事業の効果（実効性）を確認するための目標（利用者数・事業収支・国/地方公共団）が設定されていること、実効性ある利用促進施策が具体的に実施計画に位置付けられていること。

●先進車両導入関連事業の創設

インバウンド先進車両導入支援事業（ポストコロナを見据えた受け入れ環境整備促進事業）

●ローカル鉄道支援に対する地方財政措置

☆ローカル鉄道に係る公共交通の再構築支援

7月26日

◎銚子鉄道の運賃外収入について

銚子電鉄（株）常務取締役 柏木 亮 氏

銚子市企画課 企画室 室長 野口 昌輝氏

千葉県銚子市の銚子駅と外川駅^{とかわ}を結ぶ銚子電鉄は、2015年度以来の赤字が2022年度には21万円の黒字になり、コロナ禍にもかかわらず6年ぶりの黒字を達成した。

◎鉄道部門以外の定期外収入が回復

一時は電車の修理代にも事欠き、必死に副業に励んで、「ぬれ煎餅」「まずい棒」といった物販が収入を後押しした。エンタメ電車として全国から注目を集める。

《所感》

地域住民の足としての発足、地域公共交通として活躍してきている「北勢線」の存続を検討するため、我々東員町議会北勢線対策検討特別委員会は、委員会発足から運営協議会の会議を傍聴したり、鉄道事業者のヒアリングをしたり、有識者（大学研究者）の講演を聴いたりしてきています。今回の委員会視察では、国交省の地方鉄道への補助についての方針と、副業による収益で赤字を黒字に転じることができた銚子電鉄の実績を現地に行き経営者の生の声を聴いてみようという、目的、内容でした。

国交省の説明を聞き、地域鉄道に対する国の補助の考え方、補助金獲得するための手だてを聞くことができました。「地域公共交通計画」は東員町に既にありますし、三重県も作成しようとしているところであること。以外に地方公共団体の計画におけるまちづくりに「鉄道の活用」が位置付けられていて実効性ある取り組みが具体的に記載されていること、実効性を確認するための目標数値（利用者数、事業収支、国・地方公共団体の支出額）の設定がある事、等々定められている補助要件を見れば、国への補助申請をしていけるように、沿線自治体で協力して取り組んでいく必要性を改めて強く感じました。

又、赤字続きで廃線の危機的状況であったのに、「鉄道会社が本業（鉄道）以外で稼ぐのは当たり前である。」という銚子電鉄常務の言葉や、「銚子電鉄が街の広告塔になっていて、それがきっかけで観光客が来て活性化ができています。地域の活性化のために存在しているような銚子電鉄」と言いきられることが、素晴らしいと思いました。ユニークな発想が銚子鉄道を救った、斬新かつチャレンジ精神たっぷりのイベント列車や物販で集客のための挑戦を続けてきた銚子鉄道の取組に敬意を表したいですし、参考にさせていただきたいと思います。

今後については、東員町議会北勢線対策検討特別委員会としては、沿線自治体との連携をもっと考えていくべきであり、意見交換や、共同での勉強会の機会をもっていくべきではないかという思いを強くしました。

国交省の方針説明を担当官から直接聞き、質疑応答の時間も設けてもらえたこと、銚子電鉄の取組を、事業者の生の声を聴き、良い刺激を受けました。「乗って残そう北勢線」のキャンペーンは大間違いであり、正しくは「乗らなきゃつぶれてしまうよ北勢線」というキャンペーンに！という柏木常務のアドバイス、心意気が印象的で両日ともに有益な視察でした。